

地域事業費は市町村間の公平を期した合併時の約束

陳謝も責任明確化もない中での見直しは問題

現在の地域事業費制度は立ち行かなくなつた、見直しをしたい……合併時の約束であった地域事業費制度の見直しを村山市長が言い始めて大問題になっています。私は10日の一般質問で、この問題をとりあげ、市長を追及しました。やりとりの一部を紹介します。

【橋爪】これまでの議論で地域事業費を見直さなければならなくなった直接的な要因は、合併前上越市において地域事業費の計画的な管理ができなかったことにあることがはっきりしてきました。行政組織上、いったいどこに欠陥があったのか、だれの責任も含めて、改めて見直しの要因をお聞きしたい。

【村山市長】地域事業費制度に関しては、合併前上越市の区域における地域事業が、合併した当時、14市町村の間で約束した地域事業費配分の枠を超えてしまう状況にあること、また、地域事業費制度には、全市的な優先度の設定が困難であることなどの課題、国の補助金の一括交付金化等の外的な要因などの問題もあることから、現時点で制度の見直しが必要であると認識している。

【橋爪】地域事業の計画管理を所管していた部署はどこか。

なかで事業を管理し、包括的な部署が徹底されていなかった。

【橋爪】その中心に座った責任ある部署はなかったということか。

【市長】企画を担当した部局が合併の取りまとめの部局だったはず。(合併前上越市については) 枠の中で管理できなかった。合併した後から土地開発公社の返済をどうするかという議論も出てきた。突然出てくるものも出てきた、予定しないものが迫ってきた、その金額も大きかった。そのことに対応しなければならなかった。私も行政の中での詰め、将来的な取り組みが甘かったと言われれば、そうだ。

【橋爪】今後の見直しに当たっては、地域事業費制度を設計した時の考え方を大切にすると、自治体間の公平を期した設計当時の計算式は守っていくか。

【市長】合併する時にそういう議論はあった。最初のワクを基にして決めるのであれば何ら変更はないことになる。時代の変化のなかで、枠そのもので議論することが難しくなってきた。何が必要な事業か、もう一度きちっと整理し、次の時代につなげていきたい。

【市長】合併前上越市は総合計画にあるものを大きな骨子の柱として進行管理をしてきた。そのなかで地域事業はリスト化されていなかった。関係する部局全体が自らの縦割りの

【橋爪】事務事業の総ざらいの結果、地域事業がどうなるか試算してみた(下表参照)。平成19年に見直した配分額に比して旧上越市、13区それぞれの地域事業費総額は推計で、少ないところは71・9%、多いところは97・5%だ。こういうアンバランス、ばらつきを残したまま新たな地域事業の仕組みをつくっていくのか。市長は、こういう結果をどう受け止めるか。

事務事業の総ざらいで地域事業はどうなるか (橋爪試算) 単位:千円

区分	H17~H26配分額(平成19年改訂)	廃止又は改善と評価した事業数	経費削減効果事業費ベース	経費削減率	総ざらい後の推定額	改訂配分額に対する総ざらい後の比率
地域事業 合計	55,175,269	172	△ 5,463,523	9.9%	49,711,746	90.1%
合併前上越市	28,817,329	19	△ 2,500,901	8.7%	26,316,428	91.3%
安塚区	1,935,533	13	△ 307,989	15.9%	1,627,544	84.1%
浦川原区	1,470,748	8	△ 413,453	28.1%	1,057,295	71.9%
大島区	1,434,415	3	△ 131,437	9.2%	1,302,978	90.8%
牧区	1,522,525	5	△ 38,636	2.5%	1,483,889	97.5%
柿崎区	3,015,906	14	△ 81,942	2.7%	2,933,964	97.3%
大潟区	3,005,991	9	△ 113,954	3.8%	2,892,037	96.2%
頸城区	2,872,155	18	△ 171,263	6.0%	2,700,892	94.0%
吉川区	1,933,290	13	△ 191,337	9.9%	1,741,953	90.1%
中郷区	2,296,351	6	△ 270,793	11.8%	2,025,558	88.2%
板倉区	2,647,530	33	△ 528,934	20.0%	2,118,596	80.0%
清里区	1,130,230	3	△ 50,000	4.4%	1,080,230	95.6%
三和区	2,433,053	23	△ 642,024	26.4%	1,791,029	73.6%
名立区	660,213	5	△ 20,860	3.2%	639,353	96.8%

【市長】事業の有効性、優先度を整理をする中で(の結果だ)。どうしてこうなったのか、丁寧に個別の事業の内容をきちっと整理して説明させてもらう。

【橋爪】総ざらいで地域事業を対象にする前に市民とキャッチボールをやるべきだった。これから地域事業費制度の見直しをするというけれど、すでに総ざらいのなかで(事業の廃止などの評価を下し)地域事業の見直しをしちゃっているじゃないですか。残った事業(費)をちゃんとやるという保障がなければ合併は何だったのかということになる。



正月飾りづくり 大島区竹平

家族で飛び立つんです、ハクチョウは。ハクチョウがやってくる上吉野池の近くに住むSさんがにこやかな表情でそう言った時、声を上げそうになりました。「ええっ、そうなんですか」ってね。私は、そのことを知っただけでハクチョウについてもっと知りたいと思うようになりました。

これまで、渡り鳥で関心があったのは春のツバメと秋の雁くらいでした。それが先日、市役所へ行く途中、初めて空飛ぶハクチョウと出会ったのです。きれいに、力強く飛ぶ姿を見ただけでも感動したというのに、一緒に飛んでいるのが家族だと聞いては、がまんしておられません。数日後、私は、「しんぶん赤旗」日刊紙の早朝配達についてに上吉野池まで足を伸ばしました。

上吉野池は思った以上に大きいものでした。国道脇から南東方向にのびた池の長さは四〇〇メートルほどあります。幅も一五〇メートルは楽にあるでしょう。あいにく池には雨が降り注ぎ、しかもかなり強い西風が吹いていました。水面は波立っています。ハクチョウたちは石川町内会に近い、一番奥にいました。午前七時半近くになっていたのですが、すでに大方は飛び立った後でしたが、それでも水面には一〇〇羽ほどいました。みんな、「クオー、クオー」という鳴き声を上げていました。

池から飛び立つ群れは少ないもので二羽、多いものは一〇羽前後にもなります。飛び立つ時はおそらく家族の誰かが「さあ、いくぞ」と声をかけているのでしょう。一斉に鳴き声をあげ、水面をパタパタとやりながら助走し、パッと飛び立ちます。目の前を通り過ぎていく姿は、イギリスとフランスが共同開発した超音速旅客機、コンコルドにそっくりです。ひよっとしたら、この飛行機を設計した人は、ハクチョウの飛び立つ姿を見ていたのかも知れません。

朝の時間帯、ハクチョウが飛び立つ上吉野池とその周辺では様々なドラマが起こります。ある家族が飛び立った時のことでした。最初に四羽が飛び立ち、二秒ほど遅れて少し小さ目のハクチョウが飛び立ちました。遅れたハクチョウはおそらく子どものハクチョウだったのでしよう、大きな鳴き声を上げながら必死で追いつこうとしていました。先を行くハクチョウたちも盛んに鳴いています。「お父さん、お母さん、待って」「ちゃんと付いてきなさい」ハクチョウたちは、こんな会話をしているように見えました。

飛び立つて数秒後、強い風にあおられ、横に流されるハクチョウたちもいます。ハクチョウたちは強い風の時ほど低い角度で飛び出していきます。池の西側には高さ三メートルほどのサクラ並木があつて、最低限、その高さは越えなければなりません。どうもその上が強く吹くらしいのです。ちよつとの時間ではありませんが、風に流される家族がいくつもありました。でも、流される時であっても、バラバラになることはありません。左後ろなら左後ろへと同じ方向に流されていきました。

池を訪れた時間帯は雨風だったので、家に帰ろうとした時、ほんの数分だけ、雨が上りました。そして、日が差したのです。飛び立つハクチョウたちをカメラで追っていると、目の前にきれいな虹が生まれていました。保育園学校の近くです。一瞬、ハクチョウたちが飛行する姿と虹とが重なりました。虹色の空を飛ぶハクチョウの幸せ家族。めったに見られない美しい景色に出会い、心が震えました。

大島区、牧区全域が多雪区域に 要援護世帯除雪費助成事業で新方針

上越市はこのほど要援護世帯除雪費助成事業についての新たな方針を明らかにしました。

市役所高齢者支援課の説明によると、議会での提案



や関係区からの要望などをふまえていくつかの改善が図られました。

ひとつは助成区域の区分けについて見直し、大島区と牧区の全域を多雪地域としたことです。その他の地域はこれまでと同じです。二つ目。除雪費の助成の際には、これまで業者の領収書の確認が必要でしたが、請求書の確認でも請求できるようになりました。三つ目。合併前上越市の業者名簿を区の対象者にも配布することになりました。これは全市での協力体制を考えた取り組みです。

また、大島区地域協議会（写真上）から提出されていた要援護世帯除雪費助成事業に関する意見書に対する

回答の説明のため大島区地域協議会を訪れた小菅高齢者支援課長は、玄関前から除雪道路までの取付道路についても助成対象となることを明らかにしました。これは避難路となるかどうかは関係なく助成することとすることで、近々、関係区総合事務所に文書で通知するといっています。大島区地域協議会の提案が実現しました。

なお、関係区などが強く求めていた助成限度額の拡大は実現しませんでした。現行通り、多雪地域は6万5600円、その他地域は4万1000円です。

TPP交渉参加反対請願は継続審査に

JAえちご上越農業協同組合や上越農業共済組合、上越農地協議会の3団体から出されていた「TPP交渉参加反対に関する請願書」は15日の本会議で、継続審査とすることになりました。継続審査にすることに賛成した議員は30人、反対した議員は16人でした。日本共産党議員団は早急に同請願を採択し、政府関係機関に参加反対の意見書を提出すべきだとして継続審査に反対しました。

請願の継続審査が決まった後、一部の議員から「将来に希望の持てる農業政策の確立に関する決議」をしようとする動議が出されました。当初提案された決議文には交渉参加を前提にした文言が含まれていました。各派代表者会議の場で、私からこの文言の削除と一部修正を求めたところ、協議の結果、修正され、全会一致で採択されました。